

宍道湖・中海水産振興対策検討調査事業

- 低利用魚の有効利用 -

森脇晋平・内田 浩・中村幹雄

目 的

宍道湖・中海水域には多量に生息分布しているが水産的に活用されていない魚種がある。例えば、セイゴ、コノシロ、サッパなどを有効に利用できる体制をつくる。

方 法

この事業を円滑に進めるために「宍道湖・中海低利用魚有効利用研究協議会」を設立開催した。概要は以下のとおりである。

期日：平成11年10月29日

場所：内水面水試

議題： 設立趣旨の説明

研究の方向性

研究の計画

その他

構成メンバーは中海漁協・宍道湖漁協・神西湖漁協・水産振興課・松江水産事務所・水産試験場・内水面水産試験場である。

調査方針の検討

協議の結果、以下の内容の調査を行うこととなった

試供品の作製

原料特性の調査

流通実態の把握

資源量の検討

この協議内容を基本にして次年度以降調査研究をすすめることとなった。

また、低利用魚としてコノシロ、セイゴ（スズキの若魚）を用いた加工品を試作した。